



「は～い力抜いて～」

「い…きい…や…やめ…」

「おっ、威勢のいい子だね、その態度がどこまで持つかおじさん楽しみだなあ、wホラホラ！」

「痛」

「はん！」

「はん！」

「はん！」

「はん！」



「ああ、やっぱり初物とロリマンの組み合わせは反則だわ。マン肉がギッチリ絡み付いて…うらっ…」

「あっ、あっ、うあっ…も…もっ…やめ…あああっ…」

「言われなくてももう終わるよっ…はあっ、はあっ…ああ、出る出る出るっ…」

「あっ…あっ…うあっ…で…出るっ…まさか…」

10/14



「ああ〜ロリマンに初種付け  
気持ちええ〜  
金玉空になるまで射精止まんわ〜」

「うはwマンコからザーメン溢れすぎだろw  
どんだけ大量に射精してんだよw」

「で…出てる…中にいっぱい出されてる…  
や…やだ…やだやだ！出すのやだあつ！」

!?!!

ワッ

ワッ

子子子!!

子子子!!

ドクッ



「ふいふ、たぷり出たわ」

「あ…あ…う…ああ…」

「よっしや次は俺の番ね！」

「も…やだ…やだよ…誰か…助け…」

「怖がらなくても大丈夫だつてw  
いい薬持ってきてるからさw」

「…すり…?」

ぽん

ぐ



「はあっ、はあっ！おじさんのチンポどっつ？  
そっそっチンポ気持ち良くなってきたっ！」

「んっ、んっ、んうっ！そ…んな…わけ…っ  
こんな…の…ひうんっ！」

「ぐひw我慢してもだめだつてw  
もうチンポ突く度にメスの声が出るの  
バレバレだよ、ほらほらっ！」

「んうっ！そ…んな声出してんか…っ…っ…っ！」

はっ！  
すっ！  
はっ！  
すっ！

はっ！  
すっ！  
はっ！  
すっ！



「はあっ、はあっ、またいくっ!」

「ひあっ!ま...また中...っ!!  
お腹...っ、熱くて...っ、あああああっ!」

「中出しする度にマン肉ヒクつかせるとは、  
なんたる淫乱っ、薬の効果とはいえけしからんっ!  
そんなにザーメンが好きならいくらでもくれてやるわっ!」

「ああああっ♥なんで...っ、こんな...っ  
頭...痺れて...っ、ざーめん気持ちいいよお♥」

YU WU!

YU WU!



「ほらほらメグちゃん  
おじさんのチンポが入ってくるのがわかるかな」

「そ…そんなの入らな…っ  
ひっ… あっ… あっ… ああっ！」

「大丈夫大丈夫  
おじさんが優しく犯してあげるからね  
おほっ、この膜を破る感覚… たまらない！」

「あああああっ！」

！！！！

ギョッ

チッ

あ

あ



「ああ、メグちゃんマンコ気持ちえろ  
チンポを突く度に揺れる小振りなお尻も  
可愛くて、たまらん！」

「うっ、んうっ、いっ、っ、痛いっ、っ！  
お股、裂けちゃ、ひくうっ、っ！」

「はあっはあっ、ごめんねメグちゃんっ  
マンコの具合良すぎて腰止まらんわっ」

「いっ、ひぎっ、っ、も、やだ、っ、っ！  
助けて、っ、おが、さ、っ、痛うっ、っ！」

ガッ  
ガッ  
ガッ

ガッ  
ガッ  
ガッ





「おおおっ！出る出る！！」  
メグちゃんの子宮に俺の子種え！！」

「…あ…え…ふえ…？」

「ああ、出てる出てるっ」  
メグちゃんの子宮に、俺の子種えっ」

「…っ」

ヤッ！！

ヤッ！！

!?

ヤッ！！

「ふう…俺とした」ことがちよつと  
乱暴すぎたかな?ごめんねメグちゃん」

「あ…あ…う…ああ…」

「ぬっ、これはいかん…  
あんまり使いたくなかったけど  
アレを使ってみるか…」





「ふんっふんっ、ふんっ！」  
「あっ、あっ、なっ……」「れ……」  
「か……体……熱……ああ……」  
「おW効いてる効いてるW  
半信半疑だったけど試してみてもんだわW」  
「頭ぼ……として……」  
「なんで……こんな……あ……」

「アッ！」

「アッ！」



「また出すよメグちゃん……ぬっっ……」

「あ♥あ♥あ♥すい♥い♥  
気持ちいいのいっぱいきたあ♥!」

「はあっはあっ、まだまだいけるから  
おじさんともっともっと子作りしようねえ」

「する♥おじさんと子作りするっ♥!」

Yia!!  
Yia!!

「あ、あなた達こんなことしてただですむとっ」

「思ってまーすwオライアツ」

「ひっっ…ぎひひっ」

「ちよw最後まで台詞聞いてやれよw」

「ガキの戯言なんか聞いてらんねーっつてw  
女は大人しくチンポブチ込まれてりやいんだよw」





「ひっ、ひっ、ひっ……ぐすっ……」

「メソメソ泣いてんじゃねーよクソがつもつとそそる喘ぎ声かエロ台詞でもだしてみろやボケッ」

「鬼かお前はw」

「そんなの……っ、わからな……っ、痛っ！」

「チツ、使えねーな……もうとつとと終わらせるか」

あ、いっ！

あ、いっ！

あ、いっ！



「初セックスで孕めやオラッ!!」

「嘘っ!..やだ..っ!..それだけは..っ!!  
いやあああああ..っ!!」

「へははwそれだよそれw  
いい声で鳴くじゃねえかw」

「あらあら、生であんだけ派手に  
射精したらこりやマジで妊娠コースだわw」

「そ..んな..嘘..でしょ..?」

Y!!  
W!!

Y!!  
W!!



「…あ…あ…私…汚され…」

「一発やられたくらいで大袈裟すぎんだろ  
何が汚れた下らねえ」

「オイ終わったんならとっとと代われよ」

「フリーワリーwあ、そつだ  
ちよつといいモンがあんだけどよ…」

「あん？」

が  
ん

が  
ん







「念願のチノちゃんマンコゲットオ！  
すげえw小さすぎて俺のチンポじゃ  
半分しか入らねえわw」

「あ…あ…な、なんですか…これ…っ  
ち…血が…出て…痛…っ…」

「ん？いやいやセックスくらい知っているでしょw  
チノちゃんは保健体育は苦手なのかな？」

「せ…せつくすつて…こ…子供を作るための…」





「なんだ知ってんじゃん、じゃあ早速始めようかw  
俺とチノちゃんの子作りセックス!」

「なんで…っそうなるん…ですか…っ  
そんなの…嫌に決まって…っ!」

「いやいや嫌とか知らんしw  
チノちゃんが俺の子を孕むのは  
既に決定事項だからw」

「…この人は何を言ってるんやw…!」

あーっ!

あーっ!  
あーっ!

「あゝ出る出るー！チノちゃんの人生初中出しくるっー！」

「うっそっ、この人本当にっー！」

「ぐひっいいいよ、その表情w  
そういっうそその顔してくれと  
こっちも犯し甲斐あるってもんよw」

「どっどん中に入っでっ  
これじゃ本当にっ、赤ちゃん出来ちゃっうっっ！」





「ふう…いや、チノちゃんマン」最高だったよ  
「こんなに出したの人生初かもw」

「あ…あ…も…もっ…離して…ください…」

「は…いやいやいや、まだまだ」

「これからが本番でしょw」

「…えっ…な…何を言ってる…」

「やっぱセックスはお互いが気持ち良くならないとw  
これをマンコに塗り塗りすればチノちゃんでもo」

M





「あゝ出る出るっ、また出るっー!」

「あああっ♡駄目♡これ駄目え!」

「チノちゃんのイキ顔っ、ザーメンまみれのチノちゃんのイキ顔で射精止まらん!」

「ま、また出て…あああっ♡」

「こ、これ以上は…もう…っ」

「おかしくなっちゃ…あああああっ♡」





「えっと…ご指名は私でお間違いないでしょうか…?」

「う、うん、そうだけど…」

「っおおっ、写真で見るより可愛いっでも、なんでこんな子がこんなトコに…?」

「?それじゃ失礼しますね…ん…っ」

「おおっ…」



「はあっ♡はあっ♡んっっ♡  
どっっっっですかっっっっお兄ちゃんっっっ」

「ああっ、最高だよっっっっお兄ちゃんっ」

「なんて呼べばいいかわからなかったのっっ  
お気に障りましたかっっ?」

「い、いや全然っっ」

「良かったっっっそれじゃ続けますね  
お兄ちゃん♡」

あーっっっ

あーっっっ

あーっっっ



「い・い・い・です・よ・っ、我慢・しない・で  
お好き・な・とき・に・射・精・し・て・く・だ・さ・い・っ」  
「あ・っ・っ・っ・あ・っ・っ・っ・す・す・っ・っ・っ・っ  
こ・ん・な・に・入・り・き・ら・な・っ・あ・あ・あ・っ・っ・っ・っ」  
「あ・っ・っ・っ・あ・っ・っ・っ・す・す・っ・っ・っ・っ」

あ・っ・っ・っ・あ・っ・っ・っ・す・す・っ・っ・っ・っ

あ・っ・っ・っ・あ・っ・っ・っ・す・す・っ・っ・っ・っ

あ・っ・っ・っ・あ・っ・っ・っ・す・す・っ・っ・っ・っ

あ・っ・っ・っ・あ・っ・っ・っ・す・す・っ・っ・っ・っ



「はあっはあっ、ふう…  
いやあ、良かったよチノちゃん  
これなら高い金払った甲斐が…」

「…もう終わりですか…?」

「…え?」

(な、なんだ?急に雰囲気か…)

「私…もっとお兄ちゃんと…」

「コクッ」

「したい…です…♡」

「っ…」



「…」

「ま、また…こんな…」  
「はっ♡あつ♡あつ♡す♡す♡」  
「お兄ちゃん…す♡す♡」

「…の子…俺に気があるのかと思ったけど…」

「遠慮しないで…全部下さい…」

「お兄ちゃんの…全部…」

「(只のセックス好きの  
ロリビッチじゃないか…クソッ)」

キラキラ

キラキラ

キラキラ

キラキラ



「オラー!」れかつ、「のチンポがいらのかー!」

「あっ♡はっ♡ふああっ♡」

そっつ...だよっ♡おじさんの

ガチガチのオチンポでオマン♡

ズゴズゴってされるのが好きなのおっ♡

「くっ、スケベな言葉を

恥ずかしげもなくっ

なんとけしからん!」

「えっちな言葉っ、もつと言えるからっ♡

もつとオチンポ奥までちよーだいっ♡」

志♡

志♡

あーっ!

あーっ!  
あーっ!  
あーっ!



「くっ、ロリビッチのポテ腹マンコへせーっー  
だめだっ、出るっー!」

「あうっ♡おじさんのオチンポが  
中でふくらんで…っ、んっ、んっ♡」

「ぬっ、マン肉痙攣してっっ  
搾り取られるっっ!」

「あっ♡駄目っ♡イクイクっ♡  
おじさんざーめんてイっちやうっっ♡!」

んっ、んっ!

んっ、んっ!  
子!

んっ、んっ!

「ふう、中出しされて絶頂を迎えるとは最近のメスはこういう教育を受けているんだ全く」

「はあ♥はあ♥はあ♥  
ら・らっつて、こんなに熱くて…濃いの出されたら…我慢出来ないよお♥」

「年長者にたいしてロゴたえままでしょってこれは教育的指導が必要なようだな」

「きよー…いく…?」







「教育的指導おー」

「あぁっ♡しゅ♡い♡またドクドクっ♡  
きょーい♡くしゅ♡い♡よお♡もっ♡もっ♡  
きょーい♡くしゅ♡い♡」

「それだけやってもまだよがるかっ  
それならもっ♡と♡ん♡ま♡で  
やっ♡て♡やっ♡る♡わっ♡」

「オチンポまだ硬くなってっ♡♡♡  
おじさんのオチンポしゅ♡い♡♡♡  
気持ちいいの止まんないよお♡♡♡」

♡♡♡♡♡  
♡♡♡♡♡  
♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡  
♡♡♡♡♡  
♡♡♡♡♡





「あゝ出る出るっ、久しぶりの生射精だ、しっかり受け止めるよっ」

「は、はひっっ、ど、どっぞお好きなだけ射精してくださいさ…あああっっ!」

「言われんでも溜まりに溜まった特濃ザーメン全部ブチまけたるわ、オラアツ!」

「な、何この量っっ、こんなの入るわけっっからめっっ、我慢出来な…あああっっ!」

アッ! アッ!  
アッ! アッ!

アッ!  
アッ!

アッ!

アッ!



「お？おいおいザーメン溢れてんじやねえか  
しっかり受け止めてろって言ったよなあ？」

「…はあっ…はあっ…」

「自分がイくのは忘れないたあ  
使えねえポテ腹ロリ便器だなw  
まあいいや、まだやり足りなねえからよ  
次はしっかり頼むぜオイ」

「あ…は…はひ…っ」

あ

あ

ん







「あ♡あ♡あ♡あ♡す、す♡い勢い♡  
もう奥まで入って♡あああああ♡」  
「ああ♡金玉から♡香濃いのが♡ほひ♡  
その時♡ギョロちゃんのおまんこ♡  
「何♡わ♡っ♡ゼリーみたい♡プリプリしたのが♡  
こんな濃いの初めて♡私ももう♡イクっ♡  
イっちゃっ♡っ♡っ♡っ♡っ♡っ♡」

あ♡あ♡あ♡あ♡  
あ♡あ♡あ♡あ♡  
あ♡あ♡あ♡あ♡

あ♡

あ♡

「はあっはあっ、こんなに出したの  
生まれて初めてだよ、ありがとうシヤロちゃん」

「..はあっ..はあっ..ふ..ふういたしまし..」

「それじゃそろそろ2回戦いかな..」

「..え..ふ..ふ..」

「折角シヤロちゃん「日貸切コースなんだから  
時間一杯楽しまないとね」

「貸..切..ち..ちよ..ちよと待って..  
も..もう少し休ませ..あうっ..」







「あゝきたきた、またきたっ  
出しているっ？シャロちゃんの中に  
ザーメン出しているっ？」

「あっ♡はあっ♡いいい...よ...っ♡  
ちよーだい...っ♡プリプリした濃い精液♡  
もっといっばいちよーだい♡」

「あはっ♡きたっ♡すっ♡こい濃いせーしきたあっ♡  
これ好き♡これくるとイク♡イクイク♡  
オマンコイクうううううう♡」

あはっ♡  
あはっ♡  
あはっ♡  
あはっ♡

あはっ♡

あはっ♡

あはっ♡